

褥瘡も治せた0コード！



T様 (86歳) 女性
要介護3 夫と弟の3人暮らし

1. アルツハイマー型認知症
2. 大脳萎縮症
3. 高血圧

意欲低下があり、食事摂取量も少なく褥瘡ができてしまった。パット交換の強い拒否があり歩行も困難な状態。主介護者の夫も腰を痛めてしまった。

0コードの目的 ①生活全般の意欲と活気を取り戻し②食事摂取量の改善・清潔保持により、褥瘡の悪化予防③デイサービス職員との連携(送出し)

内容 ①体調確認、信頼関係の構築②食事確認/促し/見守り③排泄介助/皮膚状態の観察(保湿)④デイ送出し

効果 コミュニケーションが取れ笑顔も増え、家族とも穏やかな時間を過ごせるようになった。完食も増え、パット交換も拒否なく行えたことで得るようになり褥瘡が改善した。意欲が改善し手引き歩行可能となりデイにも行けている。

～ 短時間訪問介護の利用例 ～							
■ =短時間身体介護 ■ =身体介護+生活援助							
	月	火	水	木	金	土	日
朝	①		①				
昼	③				③		
夕							
①	30分	保清、排泄介助、着衣交換、食事・水分介助と促し					
②	20分	保清、排泄介助、着衣交換 (必要時)					
③	60分	買い物代行、褥瘡部の保清、排泄介助					

訪問介護ケアレジデンス 水戸 ☎029-350-4125 / ひたちなか ☎029-212-5547

ヘルパーが生活必需品に！



H様 (67歳) 男性
要介護4 妻と子の4人暮らし

1. 脳出血(高次脳機能障害/右麻痺)
2. 大腸癌、S字結腸癌(人工肛門)
3. 閉塞性動脈硬化症(左足切断)

妻子共に就労しており、日中独居となるが、在宅生活の希望強く懸命にリハビリに取り組んだ。妻の支援だけで何とか生活できるとサービス導入に消極的だった。

0コードの目的 家族不在時の必要なケアについて本人と家族、ヘルパーが共通理解し共同で生活を整える。

内容 ①退院後の生活状況(必要なケア)のアセスメント②移動動作の見守り③ストーマ/尿道留置カテーテルの処理

効果 サービス利用に消極的だったが、1日2回ヘルパーが来てくれることが安心材料となり、生活の一部となり生活が整ってきた。ヘルパーがワンクッション間に入ることで妻への介護依存が緩和されている。

～ 短時間訪問介護の利用例 ～							
■ =身体0コード							
	月	火	水	木	金	土	日
朝	20分: 安否・体調確認/排泄支援						
昼							
夕	20分: 安否・体調確認/排泄支援						

